

えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



5月31日三多摩守る会 沖田さん

大助さんに面会に行きました。刑務所の外観は立派な重々しいレンガ造りで、中には千名ほどが収監されている由です。面会は30分で、面会をした3人と話が弾みあっという間に終わりました。面会は今は月5回、大助さんの作業の都合に合わせている、希望者は事前に手紙を出し、その後も手紙を出して継続的に支援をしてゆくことが大切です。

初の面会でしたが大助さんはいたって元気そうで、入浴も出来、作業は毎日調理の下っ端な仕事、野菜を刻んだり洗い物をして、包丁を持つことも出来るし信頼されているんだとみました。

何故虚偽の「自白」をしたのかと意地悪な質問をしたが、あれは「自白」ではない。刑事の取り調べにつられて「やった」といったにすぎないとの答えでした。密室での取り調べの過酷さからこうして「自白」が調書にされ、「自白」とされている「反省文」を書かされ、強制された「自白」だとの言いようでした。司法のなんたるかを知らない罪のない若者の典型的な例で「自白」の恐さを痛感しました。大助さんは無期懲役囚として収監され再審請求は最高裁に係属しています。一日も早く再審を勝ちとり、両親の元へ帰してあげる事が私たちの役目です。

差入れは週刊誌2冊、ハンドクリーム、乾電池、身体ふきシート 三多摩から7名 面会者は沖田さん、鈴木さん、戸沢さん、峰尾さん、細井さん、古川さん、生江さん、



えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行が2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

5月18日(金)ご両親

新緑に迎えられ午後から面会でした。少し疲れたような顔で入室、昨今寒暖の差が激しいので身体に無理が重なるか、千葉に来てから靴職人、洗浄班、調理師見習いにくらか慣れてきたので余裕が出ればと思いきや、なかなか障害はなくならないようである。

棄却後全国から多数の励ましの手紙などいただいたと感謝しておりました。

本人は私の身体の心配で、いつまで罪のない息子がこんなところに居なければならないと思うと不憫でならず、一日も早く息子を取り戻すため、全国に訴え最高裁で決着をつけなければと強く思いました。

息子を棄却した両裁判官は無責任にも4月1日付けで千葉、東京に転勤、どんな気持ちでと怒りが一杯です。



激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2018年 118号

●6月の面会15、21、28、29 7月は月初めにメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

E・mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp



5月16日(水)

初めて千葉刑務所に行き、刑務所の独特な雰囲気
に少し怖さも感じました。

大助さんは元気な姿で「遠いところまで、来ていただき
ありがとうございます。面会室で支援者の方、両親
に会うときが、一番ホットします。刑務が7年働いて
いた靴工場から、炊事場にかわり、連休がなくなりました。
靴工場は、土日休みで今までは連休がありました
が、今の仕事は、連休がなく今年はゴールデンウイ
ークもなく、1日おきの休みでした。そのため、本を
読む時間が以前より少なくなり、溜まりはじめていま
す」と話してくれましたことが、とても印象に残って
います。

また「僕は、やっていないから、こうして皆さんに会
えます。いつも泣きたいですが、面会室では泣かない
ようにしています。せっかくきて頂いても泣いたら、
話ができなくなるから」と辛いのをこらえて話してく
れた大助さんを見て、私が泣きそうになりました。
一日でも早く、大助さんに自由な生活をさせてあげたい
と思います。愛知でも、支援の輪を大きくできるよ
う、活動していきたいと思いました。

最後になりましたが、お忙しい中、一緒に面会に行
っていただき、感謝申し上げます。

一人で不安でしたが、戸賀さんが、面会に同席いた
だけたので、沢山大助さんと話すことができました。

今後とも、よろしくお願ひいたします。

差し入れは現金

救援会愛知県本部 加藤 里奈さん

※この日は午前中に最高裁への要請日。倉敷・大崎・
湖東記念病院・各事件支援者と救援会と一緒に北陵で
は長濱（東京）、戸賀、加藤（愛知）が要請をしまし
た。



5月15日(火)

救援会千葉県本部会長鷺尾さんの案内で、大助く
んに面会出来ました。面会室に入ってくるなり、大助
くんが「高知のお母さん、遠いところ来てくれてあり
がとう」と言ってくれて、勝手に高知の母を名乗って
いた私はとてもほっとして嬉しくなり「高知のお母さ
んでいいかねえ」と言うと、「もちろん、あちこちに
いっぱいお父さんお母さんがいて嬉しい、弟妹もいるみ
たい」と言うので、家にも妹弟がいるしねと返し、初
めて会ったと思えない位最初から話がはずみました。

大助くんは本当に素直な明るい思いやりのある青年
だと思いました。笑顔で、僕はやってないから17年
間頑張れているときっぱり。それからお父さんが警察
官だったこともあって、全然警察を疑ってなかったこと、
半田医師のことも弁護士さんに言われるまで疑っ
てなかったことなど、書ききれない位途切れることな
く話してくれました。

事件のことだけでなく、大助さんは高校生の時に陸
上の選手で高知に来たことがあるということや、私が
毎月送っている「ほっとこうち」という雑誌を見て高
知に行きたいと思っている、お酒を飲まないの、ス
イーツのお店に行きたいと言うので、美味しいお店が
いっぱいあるので案内する約束をしました。また、愛
媛、香川にも会を作るように連絡を取ることも約束
しました。空約束にならないように何としても実現し
たいと思いました。30分はあっという間でした。また必
ず来るからとガラス越しにしたハイタッチが切なかつ
たです。

面会時間は30分なのに、待合室で待つこと40分
余り、計70分以上も外の待合室で待たせてしまった
鷺尾さん、本当に申し訳ありませんでした。お世話に
なりありがとうございます。 差し入れ週刊誌3冊

胡摩崎 ゆう子さん（高

知）

